

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8345
担当部課名	保健所	地域保健	課	母子保健企画
事務事業名	慢性疾患児保健指導事業		事業コード	12220

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第2節	市民健康づくりの推進	12
施策名	第2施策	保健サービスの充実	年度

2 実施根拠及び関連法令等

児童福祉法第18条の3及び19条、並びに相模原市母子保健事業実施要綱第2条第6号及び第8条

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
身体に障害のある児童及び疾病によって長期に療養を必要とする慢性疾患の児童と保護者に対し、適切な療育指導をすることにより慢性疾患児の健康の保持増進を図る。		慢性疾患児、その保護者	
		対象数	6,000人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患予防講演会「アレルギー疾患教室」 参加者:214人 (各回保育士3名対応) 食物アレルギーとアトピー性皮膚炎 国立相模原病院医師 池松かおり 小児ぜんそくと日常管理 国立相模原病院医師 田知本寛 食物アレルギーの食事の工夫 星が丘二葉園栄養士 田村照子 快適な住環境をつくる工夫 相模女子大学講師 稲田深智子 講師謝礼:126千円 保育謝礼:58千円 家庭訪問(訪問件数 40件(延)) (保健師訪問:36件 栄養士訪問:4件) 		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度～年度

4 評価指標

指標名			
指標式			
指標設定の意図			

5 目標と実績

〔金額単位:千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標			a	b	
指標			c	d	
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	222	184	222	195
	人員・時間数	180H	180H	180H	180H
	人件費	725	725	725	725
	その他経費				
	合計	0	947	947	920
特定財源					

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 =
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%>)	
$\frac{a}{b} \times 100 =$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
理由 :	制度内の数値をもって目標とすべき類のものではない。	

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 A ▼	A : 適応している	理由 : 講演会について、参加者の意見を参考に座談会を設けたり、又14年度はぜんそく児の音楽療法教室を企画している。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 A ▼	A : 妥当である	理由 : 1講座に40~50名の参加があり、質疑応答も活発に行われ、参加者が満足していることを考慮すると費用対効果は妥当である。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 A ▼	A : 代替の可能性ない	理由 : 多種多様な疾病のある慢性疾患児を対象とするだけに、民間での対応は難しいと考える。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 : 慢性疾患の疾病の種類が多いため、個別の疾病に絞った対応ができず、また、個々の対象者の要望も多種多様であることから、十分満足していただけない面がある。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A : 有効である	理由 : 障害児、慢性疾患児の健康の保持増進を図るために有効である。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 慢性疾患予防講演会における講演内容を市民のニーズを考慮し決定していくことで、慢性疾患をもつ多くの方々に満足していただける。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明 : 慢性疾患予防講演会においては、その疾患の専門講師が必要であり、講師謝礼金を圧縮することは困難。</p>

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	県内保健福祉事務所でも、アレルギー・ぜんそくをテーマとしたものが多く、その他腎疾患、心疾患の講演会も行われている。
今後の進め方		説明	障害児、慢性疾患児が疾病をかかえながら自宅で生活を送るには、多くのサービスが必要とされ、保健師が家庭訪問等で保護者の話を伺いながら、各機関と連携をとりそのコーディネートを行うことは重要である。 講演会では、病院の主治医には聞きにくい質問ができたり、同じ疾病をもつ保護者同士でコミュニケーションをとれる場でもあり、参加者からも好評である。今後も講演会の内容を検討しながら、充実させていきたい。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--